

Yumeken

夢けんせつ
DREAM CONSTRUCTORS

秋

2015 Vol.676

◆特集○話題の焦点

日本に一つ、世界でもめずらしい、人が暮らす湖の島『沖島』

◆夢インタビュー

持ち前の負けん気と明るさでパラリンピックに挑む

◆第21回夢けんせつフォトコンテスト

受賞作品紹介

◆おじゃまします

土田建材グループ



日本に一つ、世界でもめずらしい、人が暮らす湖の島『沖島』

近江八幡市の宮ヶ浜から2キロの沖合に浮かぶ沖島は、周囲約6.8km、面積は約1.5平方km。日本にただ一つ、世界中を探してもたいへんめずらしい、人が暮らす淡水湖上の島です。豊かな自然とどこか懐かしい暮らしが残る島の魅力を訪ねました。



写真：びわこビジターズビューロー



渡船の出る堀切港。右奥に沖島が見える。



島の北西からは湖西の山々を眺めることができる。

沖島の歴史をひも解く

数千年前の縄文時代の遺跡もあることから、古くから沖島に人が渡っていたと考えられています。和銅年間（704～715年）に、近江の国主であった藤原不比等によって、興津島比売命を祭る興津嶋神社が建立されました。

奈良時代には天皇への反逆罪で都を追われた藤原仲麻呂（＝惠美押勝）が、一族と共に沖島に逃れ一時期住んでいたという伝承があります。

そして、本格的に人が住むようになったのは、鎌倉時代に起こった保元・平治の乱で、清和源氏の流れをくむ7人の落武者が、島に逃れ定住したことが始まりとされています。茶谷重右衛門、小川光成、南源吾秀元、北兵部、西居清観入道、中村磐徳、久田源之丞が島の住民の祖先となったことから、今でも多くの島民がこの7つの苗字を名乗っています。

沖島は古来、戦略的にも重要な位置にあったことから、歴史書にもしばしばその名が登場しています。例えば、室町時代には延暦寺によって町を焼き払われた堅田の湖族が、約2年間沖島で避難生活を送ったという記録が残っています。

また、織田信長の求めに応じて船を差し出し、戦に協力したことによって、一里四方の琵琶湖の漁業権が与えられ、その後も航路の警備や輸送などの重要な任務を務める見返りとして、漁業権が認められました。

明治8年には滋賀県知事から永代湖上借区として、沖島の漁師のみに漁を営むことが許可されましたが、戦後の漁業法改正により消滅しました。

沖島の北側を覆っていた石英斑岩は、硬くて石垣に適していたことから、江戸時代にはこの石材を切り出して、船運を使って販売するよう

湖国 街かどウォッチング

新しい施設や街の話題をレポートするコーナーです。

家棟川のエコ遊覧船（野洲市）

家棟川は野洲市内を流れる唯一の一級河川で、市内の約8割の河川が合流して琵琶湖に注いでいます。

かつては田畑を潤し、流域の人々の暮らしに欠かせないものでしたが、上下水道が普及すると生活から遠いものとなり、多くの人が川の環境に関心を払わなくなりしました。

いつからか大量のゴミが不法投棄されるようになり、漁師として琵琶湖とともに生きてきた松沢松治さんは、家棟川のゴミが琵琶湖に流れ込んでしまうまでに、なんとかしたいと仲間や地元の自治会に

呼びかけて、「ゴミを回収する活動を始めました。」

しかし、集めても集めても「ゴミは一向に減らないため発想を転換、地元の漁師が操る遊覧船で、また豊かな自然が残る家棟川を案内し、四季折々の景観を体験しながら水辺の環境に関心を持ってもらうようにしようと、平成19年に「NPO法人家棟川流域観光船」が設立されました。

エンジンのない手漕ぎの船に乗ると、自然をより身近に感じることが出来ます。船頭さんとの会話を楽しみながらのんびり遊覧した後は、琵琶湖の幸をふんだんに使った「漁師料理」で、豊かな琵琶湖の恵みを味わうことも出来ます。

地元の自治会や学校、県外からもたくさんの方が訪れて、これまで約8,000人が遊覧船に乗船しました。

NPO法人 家棟川流域観光船では、ほかにも水源と

手漕ぎの屋形船でのんびりエコ遊覧



水源となる森での植樹活動



あやめ浜で行われたシジミつかみ体験

なる大篠原の山に落葉樹を植樹する「漁民の森づくり」や琵琶湖岸でのヨシの植栽、家棟川の生態調査、魚の観察会やしじみつかみ大会などを行ってきましたが、こういった活動が評価されて、昨年、日本水環境学会から「水環境文化賞」が贈られました。

取り組みが功を奏して、家棟川の「ゴミは少しずつ減っていますが、「琵琶湖の水環境をこれ以上悪化させないためには、一刻の猶予もありません」と松沢さん。

ホテルが飛び交い、ピワマスが遡上するかつての家棟川の水環境を取り戻すことは、再び美しい琵琶湖を蘇らせる第一歩になると、松沢さんたちは今日も琵琶湖の語り部として、水環境保全の重要性を訴えています。

NPO法人 家棟川流域観光船
●第一堤事務所
〒520-2416 野洲市堤421
TEL&FAX: 077-589-2267
●第二菖蒲事務所
〒524-0202 野洲市菖蒲262
TEL&FAX: 077-589-5215
Mail: yanamunegawa@forest.ocn.ne.jp

CONTENTS

第21回……	6
夢けんせつフォトコンテスト 受賞作品紹介	12
おしゃまします……	12
土田建材グループ	14
夢インタビュ……	14
持ち前の負けん気と 明るさでバラリンピックに挑む 宇田 秀生さん	14
近江建築探訪……	15
京都大学生存圏研究所 信楽MU観測所	15
夢けんひろば……	16
クイズ	16
「仕事の達人・遊びの達人」…… 植物に癒され、 元気をもらおう日々 森井 和枝 近江「うまいもの紀行」	18
取材を終えて……	19
編集後記	19
表紙写真 「融雪配管工事」 山田 祐市 「焼ける大橋」 杉立 好正	19

沖島には142世帯343人まで減少、現在の人口は約300人（平成27年）です。特に若年人口の減少率が大きく、島の高齢化率は40%を超え、過疎と高齢化が進んでいます。小学校に併設されている幼稚園は、今年ついに園児がいなくなり休園になってしまいました。

沖島は平成25年7月に、離島振興対策実施地域の指定を受け、自治会沖島漁業組合・子供会・女性会・老人クラブ等の主要団体関係者等により沖島町離島振興推進協議会を設立、25年度から10年間、さまざまな振興策に取り組みことになりました。

今回の取材では、協議会のメンバーの富田雅美さんと小川文子さんに島内を案内していただきました。

富田さんたちは、沖島を盛り上げるファンクラブ「もんで」を立ち上げて、会員を募集しています。「もんで」は島言葉で「島に戻っておいで」という意味。「人でも多くの人に沖島のファンになってもらいたい、沖島の良さを発信したり、沖島に遊びに来たりしてほしい」と富田さん。



写真：びわこビジタースビューロー

沖島の漁業の未来を考える

しかし、昭和期に入ると競争力を失い、高度経済成長時代にコンクリートが多用されるようになる。石材の需要は急激に減り、沖島の採石場は昭和45年に廃山になりました。



食事をしたり、おみやげを買ったりできる沖島漁業会館

沖島の主要な産業は昔から変わらず漁業で、現在は約90人が漁に従事しています。琵琶湖全体で水揚げされる淡水魚は1年で約1,200トンですが、そのうちの80トン以上が沖島で獲れたもの。琵琶湖一円を漁場に、底引き、刺網、定置網、沖引網などの漁法を、アユ、ワカサギ、スジエビ、ニゴロブナ、ウロリ、ヒワマス、ウナギなどを獲っています。

況が厳しくなる中、沖島のみなさんは稚魚の放流や外来魚の駆除などに取り組み、近年は固有種の生息数が増え回復しつつあります。

今、大きな問題となっているのは、漁師の高齢化と後継者不足です。漁業が衰退すれば、生態系や環境のさらなる悪化につながるから、沖島漁業協同組合では、漁業体験の機会を設けて若い人に漁業の関心を持ってもらうほか、例えば組合を会社のような組織にして給料制を取り入れ、安心して働けるようにするといったことを検討しています。

また、伝統的な湖魚の佃煮やふなずしを「沖島・家庭の味、宅配便」として通信販売するほか、外来魚のペットフードや、おからと外来魚の「コロッケ」「よそのものコロッケ」など、新しい特産品の開発にも取り組んできました。

「漁師の励みになるような新しい商品づくり」に、これからも前向きに取り組んでいきたい」と



漁業組合長の森田正行さん



外来魚を使った「よそのものコロッケ」

と組合長の森田正行さん。

県外からも参加者を募って、ふなずしの手づくり講習会を開催するなど、沖島の魅力を広く発信する事業にも積極的に協力しています。

沖島にはほとんど平地がなく、島の南側にあるわずかな平地に、ほとんどの住宅が集中し、家々の間に幅1mほどの狭い露地が通っています。このため、島内の移動は徒歩か自転車で、島には自動車が一台もありません。島のみなさんは、堀切近くに住み、自家用車を置いて、仕事や買い物に利用しています。

島で唯一の小学校は明治8年に開学しました。平成27年度の生徒数は10名ですが、近江八幡市内のどの学区からも通える小規模特認校に指定されていて、7名は島外の近江八幡市から通学する生徒です。教職員数は8名、目の前に琵琶湖を望む環境で子どもたちは元気に学んでいます。

また、秋に開かれる運動会は、毎年200人近い島民が参加する、島をあげてのイベントとなります。

昭和23年に湖底ケーブルが敷設されて送電が始まり、35年には上水道が敷設されました。それ以前、島には井戸がなく、早朝に琵琶湖から水がめに汲んだ水を生活用水として利用していたそうです。その後、簡易水道や下水道が整備され、平成14年には光ファイバーも架設され、島の暮らしもずいぶん便利になりました。

島には元気なお年寄りが多く、介護率も低いそうです。



昔ながらの細い露地が続く居住地域

沖島の暮らしを垣間見る

いそつです。が、昔ながらの支え合いが今も受け継がれているからかもしれません。

各家ごとにお地藏さまが祭られていて、取材で訪ねた8月の地藏盆の間は、そのお地藏さんをきれいに洗って、各家の座敷に飾り、お供えをして、子どもの健康や漁の安全を祈るとか。こんな風習が大切に受け継がれているのも沖島ならではのこともかもしれません。



各家の中にお地藏さんを祭る沖島の地藏盆

沖島をもっと盛り上げる

昭和33年には150世帯812人あった人口が、平成



沖島港屋さんの屋根に掲げられた金色のフナ

沖島 おすすめスポット



1 おきしま資料館

築100年の民家を改装し、かつての沖島の暮らしがわかる生活用品や漁具、写真などを展示しています。

- 開館時間／10:00~16:00
- 休館日／毎週月曜日、年末年始(12月25日~1月15日) ※臨時休館する場合あり
- 入館料／大人(中学生以上)200円、小人(小学生)100円、小学生未満は無料
- 0748-33-9634、080-5349-7942

2 西福寺

7人の落ち武者の一人、茶谷重右衛門の末裔が、島を訪れた蓮如上人に帰依して、庵を建てたことに始まる浄土真宗本願寺派の寺院。蓮如上人直筆の虎斑の号名や正信偈が伝わり、宝物として安置されています。

3 奥津嶋神社

頭山の中腹にある神社。712年の創建と伝えられ御祭神は興津島比売命。42歳になった者が宮世話として奉仕することになっていて、交代式は大晦日の深夜に行われます。春祭は5月8日、秋祭りは9月20日に行われます。

4 近江八幡市立沖島小学校

明治8年、西福寺の中に開設され、平成24年に創立120周年を迎えました。現在の校舎は平成7年に移転新築されたもの。沖島太鼓や遠泳大会、ふなずし作り体験など、沖島の小学校ならではの活動にも活発に取り組んでいます。

5 汀の精

沖島生まれのデザイナー奥村ひとみさんのアトリエ。土日には、天然繊維の洋服や小物を展示・販売するギャラリーとカフェをオープン。沖島産の植物を使ったローションづくりや石けんづくりなどの体験教室も開催しています。

- cafe&gallery／10:30~16:30
- 土日のみ営業(平日は予約制)
- 0748-47-8848

6 湖島婦貴の会

沖島漁協では、沖島の漁師の奥さんたちが腕をふるう、湖魚料理の定食などが楽しめます(要予約)。また、湖魚の佃煮などのおみやげも販売しています。島内ではほかに民宿などでも食事ができますが、問い合わせ・予約が必要です。

- 湖島婦貴の会 0748-47-8787
- 民宿 島の宿 0748-33-9521
- 民宿 湖上荘 0748-33-9639
- お食事何処 沖島港屋 0748-33-9665
- いっぴくどう 090-8126-0997



滋賀労働局長賞
「羽ばたけ未来へ」
大音 昌江 [滋賀県]

評 身を乗り出して聞く若者の眼差しがよい。橋桁の下でしよう、背丈しかない低い環境の悪い中での現場解説の様子を見事に捉えています。

建設業労働災害防止協会滋賀県支部長賞
「おはよう！今日も頑張ろう！」 中村 薫 [滋賀県]



評 高い現場に着き声を掛けあう仲間、二人の笑顔がいいです。釣り下げられた資材など狭い作業場、命綱を掛けいざ作業、現場の様子を的確に捉えています。

優秀賞



一般社団法人滋賀県土木施工管理技士会長賞
「耐えてる橋にテコ入れ～名神集中工事」
森野 良彦 [滋賀県]

評 多くの機械が動く両車線を入れ、人の動き姿態もよく作業の様子が良く解り、仕上がって行く様子も手前に大きく入れた道で上手く表現しています。



独立行政法人勤労者退職金共済機構建退共滋賀県支部長賞
「日影でちょっとくらいぷく」 山中 紀恵 [滋賀県]

評 夏の日射しの影は短い、狭い影に腰をおろしての憩い、季節をうまく表現しています。背景の民家も入れた切取がいいです。

入選



「チームワーク」
佐藤 博 [埼玉県]



「パワー注入」
竹村 悦子 [高知県]

特別賞



BBCびわ湖放送株式会社賞
「どっしり構えて」 山本 公俊 [滋賀県]

評 どかんと腰をおろしてと言うよりも、作業高さのない状態をうまく表現しました。左右の保護柵の入れ方がいいです。

PHOTO 第21回 CONTEST 入賞作品

●審査員/滋賀県写真連盟 会長:澤野 二郎 並びに主催者

- 主催/一般社団法人滋賀県建設業協会
- 後援/滋賀県、滋賀労働局、公益社団法人滋賀県建設産業団体連合会、西日本建設業保証株式会社滋賀支店、滋賀県建設業協同組合、一般社団法人滋賀県土木施工管理技士会、建設業労働災害防止協会滋賀県支部、独立行政法人勤労者退職金共済機構建退共滋賀県支部、びわ湖放送株式会社、株式会社SIN
- 協賛/滋賀県写真連盟、滋賀県カメラ材料商組合、株式会社トミカラー

第一部
「建設業にはたらく人々」
第二部
「滋賀の自然や町並みに
マッチした土木構造物」

	応募者数	応募点数	第一部	第二部
総数	163人	297点	151点	146点
内訳	県内	104人	76点	114点
	県外	59人	75点	32点

入賞作品展のお知らせ

- 11月8日(日) 滋賀けんせつみらいフェスタ 入場無料
大津港(滋賀県大津市浜大津5丁目5-1)
- 平成28年4月中旬頃 愛荘町立愛知川びんてまりの館
(滋賀県愛知郡愛荘町市1673)

審査後記

滋賀県写真連盟会長 澤野 二郎

昨年より少し少なくなりましたが、力作が沢山あり審査委員の方々、大変ご苦労いただいたと思います。働く人、現場で作業中の人達を撮ることは、なかなか撮影位置も難しく限られた中よく写されています。少しアップにし過ぎて作業環境や高所での作業の高さなどが見えない作品もあり惜しく思いました。第二部では、よく足を運び季節や時間帯をいかし造形物を上手に調和させた作品が上位に入りました。

第一部「建設業にはたらく人々」

(デジカメ・カメラ可)

グランプリ

滋賀県知事賞
一般社団法人滋賀県建設業協会会長賞
滋賀県写真連盟会長賞
「融雪配管工事」 山田 祐市 [滋賀県]



評

機械を操る真剣な姿、声を掛けながら作業しているであろう二人の関係が、後姿からよく伝わります。背後のトラックの動きも臨場感があり、右に少し入れた風景も良かったです。

第二部「滋賀の自然や町並みにマッチした土木構造物」

(デジカメ・カメラ可)

グランプリ

評

こんなに美しい夕焼けはあまりないです。空の変化はある程度予測できますが、出合いを逃さず空を大きく入れ美しくまとめています。



滋賀県知事賞
一般社団法人滋賀県建設業協会会長賞
滋賀県写真連盟会長賞

「焼ける大橋」杉立 好正 [滋賀県] <滋賀県大津市>

優秀賞



西日本建設業保証株式会社滋賀支店長賞
「穏やかな一日」
岡田 健司 [滋賀県] <滋賀県米原市井之口>

評 黄昏時の田園の様子、豊かな水を強調し上手にまとめています。人物もよく生活感があり日常のよい光景です。

滋賀産業新聞賞
「Autumn Road (秋の道)」
前河 栄次 [滋賀県] <滋賀県高島市>

評 メタセコイアの並木、撮影位置やレンズの選択がよく、秋色一色にまとめられたのが成功しています。轍のあと、一台の自動車も良いアクセントです。



「協同作業」
杉谷 幸雄 [滋賀県]



「舗装作業」
高橋 敏明 [北海道]



「若者の夏」
西 正己 [滋賀県]



「舗装はおまかせ!!」
平谷 まなみ [滋賀県]



「山頂への道」
元持 伸介 [滋賀県]



「復興へ。」
門林 泰志郎 [福島県]



「大勢で」
矢野 直孝 [東京都]



「未来に向けて」
奥村 和弘 [滋賀県]

奨励賞

「溶接工」
鈴木 栄子 [滋賀県]



「集中」
田中 和孝 [滋賀県]



「歩道の融雪工事」
伊藤 武 [長野県]



「明るい塗装職人」
河野 サエ子 [山口県]





滋賀県建設業協同組合理事長賞
「錦をまとって」
中西 博樹 [滋賀県] <滋賀県甲賀市>

評
遠景のダム、コンクリートが木々の間で輝いています。紅葉の木々が美しく季節を選んでの撮影がよかったです。



公益社団法人滋賀県建設業団体連合会長賞
「湖南アルプスを跨ぐ」
福田 尚人 [滋賀県] <滋賀県大津市(近江大鳥橋)>

評
鳥をイメージした橋脚、星空に浮かべてシンプルにまとめました。デジタルカメラで夜の撮影が楽になったとは言え努力が実を結びました。

U22 特別賞



夢けんせつフォトコン実行委員会 委員長賞
「石造りの古橋と古池」
福住 直哉 [滋賀県] <滋賀県大津市>

評
石に囲まれた池、長い年月変わることなく水を湛え人達を癒してきました。静かな水面の映り込みなど素直に写したのが良かったですが石が雨に濡れていればと惜しみます。



BBCびわ湖放送株式会社賞
「豊かな水」北川 孝
[滋賀県] <滋賀県多賀町>

評
堰堤から豊かに流れる水、新緑に包まれ静かな時がながれ美しいです。下流の農地、豊かな実りを感じさせます。

入選



「琵琶湖大橋日の出」
瀬戸口 初男 [滋賀県]
<滋賀県大津市>



「清流」
小川 武司 [滋賀県]
<滋賀県東近江市>



「春のうぐい川」
藤沢 迪夫 [滋賀県]
<滋賀県甲賀市鮎川>



「雪のハイウェイ」
奥村 芳明 [滋賀県]
<滋賀県大津市>



「桃源郷への入口」
矢野 暢英 [滋賀県]
<滋賀県甲賀市>



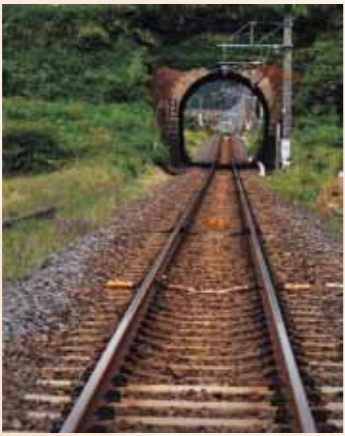
「東西を結ぶ」
塩見 芳隆 [京都府]
<滋賀県大津市>



「自然の懷に抱かれて」
兼光 喜一郎 [滋賀県]
<滋賀県大津市>



「ファミリーが往く」
本庄 重夫 [滋賀県]
<滋賀県高島市マキノ町>



「明治時代のレンガ造りトンネル」
曾我 一彦 [滋賀県]
<滋賀県甲賀市>



「暮れなすむ頃」
小林 正治 [滋賀県]
<滋賀県近江八幡市>

奨励賞



「終業後現場を通る子ども達」
北村 進次 [滋賀県]
<滋賀県長浜市元浜町>



「赤い橋」
喜多 捷成 [滋賀県]
<滋賀県東近江市>



「鮎川の春」
新海 正男 [滋賀県]
<滋賀県甲賀市>



「湖北景勝」
木下 正治 [京都府]
<滋賀県長浜市西浅井町菅浦>



「唐橋春景」
大町 誠一 [滋賀県]
<滋賀県大津市瀬田>

会社の元気アップを目指し、「三方よし」で原点回帰

土田建材グループ

東近江市五個荘小幡町68番地30

代表取締役 土田 真也



本社社屋

適切な処理と再資源化で循環型社会の構築を目指す

昭和47年創業の同社は、土木工事から舗装工事、造園業、リフォーム事業へと営業範囲を広げてきました。特に社会資本の整備が進み、大量かつ多種類の産業廃棄物が排出されるようになると、廃棄物の適切な処理と再利用に着目し、昭和61年からは産業廃棄物処理も手がけるようになりました。

平成2年にツチダ開発株式会社を設立、中間処分場2カ所と最終処分場2カ所を有し、解体工事によって出た廃棄物の適切な処理や再資源化に取り組んできました。リサイクル施設として認定を受けた中間処分場「工コの駅ツチダ」では、木くずや廃プラスチック類等をリサイクル資源となるよう適切に処理しています。

また瓦廃材を再利用するため、同社が開発した透水性特殊舗装製品や複合コンクリート製品は、滋賀県から「滋賀県リサイクル製品（ビワフルエコ製品）」の認定を受けています。

場や歩道などの舗装に利用されています。平成13年にはISO14001を取得し、持続可能な循環型社会の構築を目指して、廃棄物からガラスや木材など資源となる材料を丁寧に選別し再資源化を図るほか、廃棄物管理や土壌浄化を中心に環境リスクの低減に取り組んでいます。

またCSR活動の一環として、解体現場の板ガラスや家庭の空ビンなどの廃ガラスを利用してガラスアートを製作し、リサイクルの体験学習ができる「ツチダチャコール工房」を開設、子供会や婦人会などの利用を通じて、限りある資源について考え、環境意識を高めるよう啓発活動も行っています。

女性の活用も視野に会社を元気にする社員の成長に期待

土田社長は協会の建設青年会議でも活躍業界の人手不足問題を解消するための取り組みとして、婚活パーティーの実施にも積極的に取り組んできました。

東近江支部では建設業で働く女性を集めて、「もしもすれば女性が働きやすい職場になるか」といったことをテーマに、自由に話し合ってもらう機会を設けようと、現在準備を進めています。「建設業と恋愛する女性、管理職としてがんばれる女性が増えるような、さまざまな取り組みをしていきたい」と土田社長。

そのほか、古き良き時代をテーマに、昔ながらの技術を持っている先輩を招いて、話をしてもらおう機会が作れないかと検討中です。ハイテクだけでなく、特に災害時に真価を発



廃材はリサイクルしやすいよう分別しながら解体作業が進められる。



廃ガラスを使って作品づくりが体験できるツチダチャコール工房



駐車場や歩道、外構などに利用される瓦廃材を再利用した舗装材

す。照り返しが少なく水はけが良い、作業性が良い、歩行性が良い、冷却効果があるなど、数多くの利点があり、駐車



揮するローテクも大切に受け継いでいけるよう、ここにも一度注目を集めるといいうねらがあります。

土田社長は、今こそ建設会社が元気を取り戻すチャンスだが、そのためには近江商人の教え「三方よし」という原点に回帰することがポイントになると言っています。

社員一同、仕事をさせていただきありがとうございます。土田社長は、今こそ建設会社が元気を取り戻すチャンスだが、そのためには近江商人の教え「三方よし」という原点に回帰することがポイントになると言っています。

そして、「会社を元気にするためには、社員全員が健康でやり甲斐を感じることができ職場環境づくりが大切。会社の財産である社員の価値を高めることが重要になる」と、社員の元気と能力を引き出し、育てることで会社を元気にしていきたいと、今後の成長に期待を寄せています。



協力業者を集めて開催される安全大会



騒音・粉塵など、周辺への影響にも配慮して適切な解体工事が行われる。



さまざまな工事に対応できるように各種重機を保有している。



瓦廃材の再生プラント



土田 真也社長

夢けんひろば

滋賀県建設業協会や滋賀県建設青年会議などの動きについてご紹介するコーナーです。

★誌面でご紹介する2015年4月から2015年9月までの主な動きのほか、滋賀県建設業協会の動きは協会広報委員会のフェイスブックで発信しています。

2015



青年会議主催の講演会



滋賀県総合防災訓練



第52回野球大会開会式



フォトコンテスト審査会

4月28日(火)

滋賀県建設業協会理事会開催

平成26年度の事業報告と収入支出決算について協議しました。

5〜6月

改正品確法に係る運用指針についての周知徹底訪問活動

県内全市町へ改正品確法に係る発注関係事務運用指針の周知活動を行いました。

5〜6月

東近江支部がCPD、CPDS認定講習会を開催

5月27日(水)

滋賀県建設業協会総会開催

5月19日(火)

イメージアップシートを配布

広報委員会では、フォトコンテスト、絵画コンクールの昨年度の入賞作品の中から各3点ずつ作品を選んで製作したイメージアップシートを、協会会員企業に送付しました。

5月31日(日)

高島支部が高島地域水防訓練を実施

滋賀県と高島市の主催で行われた地域水防訓練に、高島支部も参加・協力しました。

6月2日(火)

長浜支部が琵琶湖清掃を実施

長浜支部ではさいかち浜で清掃活動を実施しました。7月29日には朝妻漁港で、また9月17日には再びさいかち浜で清掃活動を行いました。

6月4日(木)

建設フェスタ設立総会

7月後半〜8月

夢けんせつ秋号の取材をスタート

7月31日には広報委員会のメンバーが、甲賀市信楽町にある京都大学生存圏研究所信楽MU観測所取材しました。また8月24日には、近江八幡市の沖島を訪ねました。

7月3日(金)

甲賀支部青年部会が社会貢献活動を実施

青年部会の15名が社会貢献活動として、湖南市市庁舎周辺のゴミ拾いを行いました。

7月6日(月)

甲賀支部青年部会が意見交換会を開催

青年部会のメンバー9名が、甲賀市役所の職員13名と意見交換会を行いました。

7月7日(火)

青年会議環境委員会 環境校外学習を実施

甲賀市立伴谷東小学校小学5年生78名が、川の役割や構造、昨年の台風18号の水害被害から学んだ安心できる川づくりと建設業の役割について説明を受けた後、CESAの今村忠彦氏と「川原の生き物や自然について」「川と環境にやさしい工事について」学習しました。

7月12日(日)

彦根支部がびわこ清掃活動を実施

7月23日(木)

大津支部が社会貢献活動推進月間功労者表彰を受賞

全国建設業協会の社会貢献活動推進月間功労者に、協会大津支部が選ばれました。同支部が取り組んでいる、フェイスブックを利用した「防災支援活動の見える化」が評価されました。

8月12日(水)

夢けんせつフォトコンテストの審査会

今年で21回目を迎える「夢けんせつフォトコンテスト」の審査会が、夢けんプラザで行われました。グランプリや優秀賞など各賞を決めるため、審査員のみなさんはズラリと並んだ作品を真剣な表情で見比べていました。

8月12日(水)

彦根支部が防災訓練に参加

8月19日(水)

伊香支部が湖岸道路の清掃活動を実施

8月21日(金)

甲賀支部が社会貢献活動を実施

甲賀支部のメンバー41名が水口小学校のグラウンド整備を行いました。

8月22日(土)

建設界野球連盟 第52回大会開会式

滋賀県建設業協会が後援する、建設界野球連盟の第52回大会が始まりました。9月16日に閉会式が行われ、(株)桑原組の優勝で大会は幕を閉じました。

8月23日(日)、24日(月)

高島支部が社会貢献活動を実施

高島支部の会員が市内の教育施設(本庄小学校、青柳小学校、安曇小学校、広瀬小学校)のグラウンド整備(除草や真砂土敷き均し、転圧、整正)を行いました。また、体験学習も実施しました。

9月1日(火)

大津支部が琵琶湖清掃を実施

9月6日(日)

滋賀県総合防災訓練に参加

湖北地域で開催された訓練に、長浜支部が参加・協力しました。

9月10日(木)

滋賀県建設青年会議次世代創造委員会が講演会を開催

「東日本大震災 現場からの証言 復興に向けての課題と提言」というテーマで、復興の最前線で働くリーダーを招き、復興への問題点や今後の災害対策について講演していただきました。

9月14日(月)

甲賀支部が社会貢献活動を実施

甲賀支部のメンバー48名が参加して、水口子ども森の除草作業を行いました。

9月26日(土)

建設青年会議が婚活パーティーを開催

昨年に続き、会員企業の社員に出会いの場を提供する婚活パーティーが、フェリエ南草津で開催されました。今年は何組カップルが成立するか楽しみですね！

イメージアップシート



夢けんせつ秋号の取材



長浜支部の清掃活動



甲賀市で行われた環境郊外学習



全部でいくつ?
答えの数字をすべて合わせるようにくっつけるパズル
ヒント 特集「話題の焦点」

1 沖島小学校が開学したのは?

明治●年

2 沖島が離島振興対策実施地域の指定を受けたのは?

平成●年

3 鎌倉時代に沖島に移り住んだ落武者は?

●名

4 沖島小学校に通う島内の生徒数は?

●名

5 沖島の面積は?

約●平方km

6 沖島を走る自動車の数は?

●台

7 沖島に電気が送電されるようになった年は?

昭和●年

すべてを足すと?

パズル&クイズ当選者

- 清水 正博さん
- 西川 哲也さん
- 平地 雅子さん
- 那須 文英さん
- 山下 和宏さん
- 丹治 徳彦さん
- 吉田 章二さん
- 植田 慶一さん
- 西村 忠員さん
- 鍋島 道雄さん

応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を進呈します。ふるって応募ください。
- 別のハガキにて応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り
平成28年1月20日必着
- あて先
〒520-0801
大津市におの浜一丁目1-18
(一社)滋賀県建設業協会 広報委員会

季刊夢けんせつ秋号

2015年(平成27年)10月10日

通巻第676号

発行 一般社団法人滋賀県建設業協会

〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18

TEL.077-522-3232(代)

FAX.077-522-7743

http://www.yumeken.or.jp

企画編集 広報委員会

協力・印刷 宮川印刷株式会社

台風に伴う災害が報じられると被害の甚大さに驚くとともに、改めて建設業界の果たす役割の重要性を感じたところです。被害にあわれた方々へ心よりのお見舞いを申し上げます。

さて、今年のフォトコンテストもたくさんのご応募ありがとうございました。業界のイメージアップにつながる素晴らしい作品や、これどころと興味をひくような滋賀の風景も多く出展いただき、訪れてみたい場所がこんなにあるんだと地元を見直すきっかけにもなりました。

そんな中、今回我々広報委員会が取材に訪れたのは近江八幡市の沖島。琵琶湖に浮かぶ有人島で自動車が行っていない! 対岸への行き来は船のみ。滋賀県に、というか日本にこんなところがあるのかと驚きつつ島内を取材しましたが、現地でもいただいた琵琶湖の魚の美味しいこと!まさに湖国の宝です。

美しい自然の中で、ゆっくりとした時間の流れるこの島は貴重な地元再発見でした。素晴らしい文化と風習を守りつつも、現代の生活の利便さを求めていくのは難しいことだなぁと考えたりしながら島を後にしました。

広報委員会は、建設業界が果たす地域における重要な役割を担っていること、次代の若い担い手に夢と希望をもってもらうこと、そして滋賀の素晴らしい魅力を多くの方に発信していくために、会員の皆様のご協力を基に活動して参ります。

After Word

取材を終えて



沖島産のサツマイモで造った芋焼酎

今号の特集は「沖島」でしたが、島外から沖島の活性化を応援している人たちもいます。美しい自然やどこか懐かしい風景が残る沖島の魅力を発信し、活性化をサポートしたいと活動している「おきしま倶楽部」です。

主な活動は、沖島の新しい特産品の開発です。沖島の漁師さんが獲った新鮮なシジメの旨味を活かした「おきしませんべい」を商品化、ヒット商品となりました。さらに、今年は沖島の耕作放棄地を整備して栽培したサツマイモを使った芋焼酎「沖の雫」を販売しました。

特産品開発のほかにも、ケンケン山から尾山をめぐるトレッキングコースの遊歩道や広場の整備を行っています。

また、昨年から、NPO法人「夢・同人」(理事長・國松善次前知事)を母体に、平成23年に設立された「びわ湖夢王国」と連携して活動を行っています。その活動の一つに、年



おきしませんべい



遊歩道の中にある「ホオジロ広場」

おきしま倶楽部
http://okishima.org/index.html
Email: info@okishima.org

に一度、親子の参加者を募って「泊2日2日でキャンプやカヤックなどを楽しむ」「ワクワク沖島体験ツアー」があります。

代表の福井和彦さんは、近江八幡市出身。長く東京などで仕事をしていたが、滋賀に戻って沖島に離島振興法が適用されることを知って、初めて沖島を訪ねたそうです。昭和の風景が残っている家並みや、時間がゆっくり流れるような沖島の魅力をなんとなく残していきたいと思ったことが、活動を始めるきっかけになりました。

今後は沖島の自然と触れ合い、家族連れで楽しめるツアーやイベント、古民家を活用したシェアカフェの提案などを考えていきたいと語っています。

活動に興味のある方はぜひ、ボランティア活動などに参加してみてください。



緑がいっぱいの自宅前に立つ森井さん

うれしいことに、植物にまつた興味もなかった娘が、アサギリンソウの小さな鉢植えに出会ったことから、植物を育てるようになりました。今では、



へご(左)とヒモサボテン



20数年間、庭のある古い家に暮らし、植物を育てることを楽しみにしてきました。ガーデニングと言うより、シダ類やグリーンが大好きで、リビングやキッチン、寝室など家中にグリーンを置き、また窓からも緑を眺められるようにしています。

2年前に自らリフォームした時も、古い庭の植栽をできるだけ生かし、室内でもより緑を楽しむ暮らしになるようにと工夫しました。

ソテツシダの庭のある家で育ったからか、シダ類が大好きです。中でもお気に入り「へご」という大型のシダ。乾燥を嫌い寒さにも弱いので、家庭で育てるのは難しいと言われています。

サボテンや多肉植物もたくさん育てています。あまり水をあげなくてもいいので簡単に育てられるように思われがちですが、実は結構難しく、一つひとつ育て方をしっかり調べて適切な手入れをするようにしています。

2人で一緒に手入れをしたり、園芸店を見に行ったりして楽しんでいます。

毎日、仕事と家事をしながら、水やりをしたり、休日には植えかえなど季節の作業に終わります。これは本当に好きでなければできないことだなぁと思いつつも、元気で大きくなってくれたら、植物が応えてくれているようでうれしくなります。

夏は汗だくになって虫に刺されながら手入れをしても、なんだか心が癒され、元気をもらえたような気持ちになるのが、植物の良いところだと思っています。

最近は集合住宅が増えたせい、「植物を育てた経験がない」「どう扱っていいかわからない」と億劫がる人が多いように感じます。小さな鉢植えでもいいので身近に置いて、もっと気軽に植物のある暮らしを楽しんでほしいと思います。育ててみたらそこから見や喜びが得られるのではないのでしょうか。

たでめん(野洲市)



かき揚げ付きのたでうどん 600円

強い香りや独特の辛みがあるタデの葉は、昔から薬草や香辛料として利用されてきました。

あゆの塩焼きにつけて食べる「たで酢」がよく知られています。

野洲市にある御上神社の祭礼「ずいき祭り」には、乾燥させて細かく砕いたタデとじゃこを酢飯に混ぜた「たで寿司」が神前に供えられます。

野洲市商工会駅前支部の女性メンバーは、このタデを使って野洲を活性化したいと、「笑CO's娘CLUB」(えここのクラブ)を立ち上げ、「YASU-TADE-BRAND」の商品開発に取り組みできました。

そして、タデの葉を微粉末にしてうどんに練り込んだ「たでうどん」を5年前に発売しました。苦みや辛みもほとんどなく、モチモチした食感ときれいな緑色が特徴の麺が、うどんをテーマにしたイベントなどでも話題になりました。

タデには殺菌作用のほか、消化促進、食欲増進、利尿作用などの効果もあり、また麺に練り込むと引き締める力でコシの強い麺ができるそうです。

さらに、このたでうどんの第2弾として、おみやげにもなる商品の開発に取り組み、今年即席めん「たでめん」を発売しました。

こちらの麺は手延べにゆめんですが、最初ほうまく伸ばすことができず、試行錯誤の末、タデをペースト状にして生地に加えることで、ようやく麺が製造できるようになりました。

お湯をかけるだけの即席めんなのに、すべて国産素材を使った無添加食品で、ツルツルしたのどごしと出汁のやさしい味わいに、早くもリピーターが続出しています。素麺なのにしっかりコシがあって伸びにくいのも人気。

野洲駅近くにある「手づくり舎ふぁもあ」の店長 坂口陽子さんは「笑CO's娘CLUB」のメンバーの一人で、たでうどんはここでいただくことができます。たでめんは同店のほか、野洲市内のショップやレストランでも販売されています。



無添加・国産素材のたでめん 1袋350円

連絡先: 笑CO's娘CLUB
手づくり舎ふぁもあ
野洲市小篠原2111-6
☎077-587-0761



一般社団法人 滋賀県建設業協会
www.yumeken.or.jp